

おいしいお米コンテスト『お米番付!』

京の米老舗 八代目儀兵衛が主催する「第11回お米番付」において、当社の関連会社である株式会社愛農の得意先様であり、北海道上川郡剣淵町に在住の秋庭（あきにわ）伸夫様が最優秀賞を受賞された。32道府県182品エントリーの中で最優秀賞に輝いた銘柄は「ゆきさやか」で、当社が販売しているエムシー・ファーターコム株式会社製造のトモエ化成、オルガニン、バイオフミン、サンメイト等の資材を活用されている。

「お米番付」は「うまい米」とは何かを突き詰め、有名な産地や銘柄ではなく日本の「うまい米」や「生産者の技術」を未来に継承していきたいという思いから11年前に誕生したお米コンテストである。最終審査会では食のプロである特別審査員6名で選考を行い、受賞者を選定。機械を一切使用せず、人が食べて美味しいと感じるお米を正しく評価するという点で、生産者からの信頼も厚く、権威あるコンテストとして運営されてきた。日本には数々のお米のコンテ



秋庭伸夫様 最優秀賞受賞（前列左から3番目）

ストが存在しているが、実はほぼすべてのコンテストの1次審査では「食味計」という機械を使用。この機械で大部分がふるいに掛けられるが、お米番付では「人が食べておいしいお米」を評価すべく、食味計を用いた機械的な審査をすべて排除し、出品されたお米はすべてお米のプロが食べて審査。「人が五感で感じるおいしさ」を追求した実食審査を実施している。お米を炊飯し「ごはん」として審査をする過程でバラつきが出ないように、炊飯工程でも厳正なマニュアルに基づいて炊飯を実施。評価項目は香り・ツヤ・白さ・食感・粘り・甘さ・喉越しの7項目。これらの各項目をそれぞれ数値化し、定量的に審査されている。

八代目儀兵衛はセブン-イレブンのお米の監修の他、京都祇園に「京の米料亭 八代目儀兵衛」、東京銀座に「銀座米料亭 八代目儀兵衛」を営業中である。2月22日(土)、2月23日(日)には秋庭様の「ゆきさやか」を味わえたとのこと。

「ゆきさやか」特徴下記ご参照ください。出典：農研機構 北海道農業研究センター

品種の特徴

- 「ゆきさやか」のアミロース含有率は、「ゆめぴりか」よりやや高いですが、タンパク質含有率が「ゆめぴりか」よりも低く、「ゆめぴりか」と同等の良食味を示します。
- 「ゆきさやか」のアミロース含有率は登熟気温による変動が小さく、食味が安定しています。
- ご飯の白さに優れていて、つやがあり、雪のように白く清らかです。

末筆ですが秋庭様にはこの度の最優秀賞の受賞を心よりお喜び申し上げます。今後とも当社商品のご愛顧の程、よろしくお願い申し上げます。

～中部菱肥会理事運営委員会 セミナー開催！～

去る令和7年2月14日(金)、名古屋マリオットアソシアホテルに於いて中部菱肥会理事運営委員会(15名出席)、JRゲートタワーカンファレンス会議室に於いて中部菱肥会セミナーを開催致しました(会員及び賛助メーカー出席者27名)。

セミナーでは、(株)穂海耕研 代表取締役 平井雄志様(以下、平井さん)を講師にお招きし、『穂海が考える 大規模コメ農場経営』をテーマにご講演をして頂きました。平井さんは三菱商事(株)出身、肥料原料、海外勤務、当社、エムシー・ファティコム等を含む三菱商事肥料事業投資先業務等、従事された後、現職へ転身されました。現在、新潟県上越市にて水稻栽培を中心とした生産会社(有)穂海農耕、米穀集荷販売会社(株)穂海、農業コンサルティングや各種セミナーを企画、運営する(株)穂海耕研にて代表取締役としてご活躍されておられます。

今回のセミナーではコメ生産事業(コメ農場)についてのご講演をして頂きました。同社は作付面積220ha(平均圃場面積15a、管理圃場枚数1,600枚)にて水稻栽培を中心に展開しており、圃場環境は中山間地特有の1圃場当たりの面積が小さい状況下で、持続的な経営の為、栽培のしくみ(栽培PDCA)を通して再現性・持続性確保、作業のしくみ(作業準化)を通してコスト競争力の確保を構築した経営モデルを実践しているとの事。大規模コメ農場の要諦としては適期作業と人・機械の費用最小化といった、相反する事項の同時実現が大切である。具体的な取組事例紹介として適期作業実現の為、多品種栽培や雪解け水を利用した直播栽培技術の導入、AIやドローン等、スマート農業技術の活用



といった環境に順応し変化し続ける姿勢がそこにはあると感じました。(株)穂海の米穀販売事業について、昨今の米穀情勢(米価等)や流通の仕組み解説、同社としての販売戦略についてご説明して頂きました。同社として、生産者側の都合と実需者側の都合を同時に満たす事が重要であるとの考え方にに基づき、今後更に需要が見込まれる業務用米実需に対応すべく業務用米の安定供給に努めているとの事です。ご講演を通し、同社の経営理念でもある、『農場からシンカする』を体現している内容で、また平井さんのご説明も理路整然としており、さすが元商社マン、と感銘を受けました。ご参加頂きました皆様からも非常に好評を頂く事が出来ました。

次の項では、肥料原料の多くを海外に依存している我が国において懸念すべき中国の動向、長期化するイスラエル・ハマス問題、新トランプ政権における肥料原料への関税措置検討等についての現状を当社原料部 澤口より、説明させて頂きました。

最後に、今回のご講演で平井さんが仰っていた日本人は改善=Doing Better(連続性)は得意であるが、転換=Doing Different(非連続性)は苦手、しかし今後は転換していく事が最も大切だ。大規模農場経営者が直面する、労働力不足の前提で栽培環境の変化に対応し、環境へ配慮しつつ持続的経営を実現する為の栽培戦略、資材戦略を実行していく事が転換=Doing Different(非連続性)の基礎であり、非連続的打ち手が求められている状況下に身を置かれている平井さんならではの実感がある様にお見受け致しました。

また昨今の農業業界に目を向けると、国内環境は農業者人口減少や高齢化、耕作放棄地増加等、海外環境は地政学的リスクの顕在化といった今まで経験した事のない目まぐるしく変化している状況下において、平井さんの言う、転換=Doing Different(非連続性)する事が業界全体として今後ますます重要になってくるのではないのでしょうか？(大阪支店)

今年も強烈寒波が続いています。大雪地方の方は車の運転でのスリップ、落雪、雪崩など十分にご注意ください。

編集事務局：田口、山内

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>